

# 2024年度 第1四半期 決算概要

2024年8月8日

沖電気工業株式会社

## 2024年度 第1四半期決算の概要

- 対前年比大幅な増収・増益。
- 全体として概ね計画どおりにスタート。

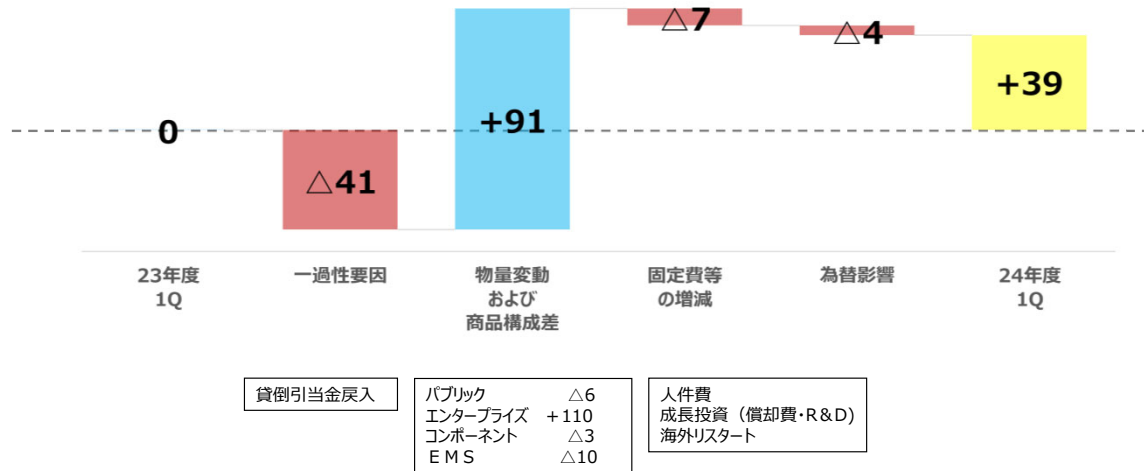
(単位：億円)	24年度 実績	23年度 実績	前年比
売上高	979	815	+164
営業利益	39	0	+39
経常利益	39	△3	+42
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	18	△2	+20
USD平均レート (円)	155.9	137.4	+18.5
EUR平均レート (円)	167.9	149.5	+18.4

- 2024年度第1四半期は、売上高979億円、営業利益および経常利益はそれぞれ39億円、当期純利益は18億円となり、対前年同期で増収増益となりました。
- 前年度後半から継続している大型案件の着実な刈り取りを主因に、売上高は前年同期対比で20%増加し、164億円の増収。
- 営業利益も39億円の増益となり、概ね計画どおりにスタートを切ることができました。
- 経常利益は、為替差損益の良化などもあって、対前年で42億円の増益、当期純利益も、20億円の増益で着地しました。

## 2024年度 第1四半期営業利益の変動要因

- 前年度後半以降のエンタープライズソリューション事業の大型案件が引き続き堅調に推移するとともに、前年同期の部材コスト増の影響が剥落したこともあり、営業利益は大幅にプラス。

(単位：億円)



- 続いて、第1四半期の営業利益の変動要因です。
- 2023年度は「一過性の要因」、すなわち貸倒引当金の戻入41億円の影響があったことから、それを加味すると実質80億円の増益となります。
- 「物量変動および商品構成差」が、+91億円。前年度後半以降のエンタープライズソリューション事業における大型案件が引き続き堅調に推移したことに加えて、前年同期における部材コスト増の影響が剥落したことなどもあり、大幅な利益改善となりました。
- 続いて、「固定費等の増減」が、△7億円。主に成長投資や、海外事業のリスタート費用等で増加しました。
- 「為替影響」は、全体として△4億円。主として、パブリックソリューション事業、エンタープライズソリューション事業のドル建ての仕入れにおける影響です。
- 以上が、営業利益の変動要因の説明です。

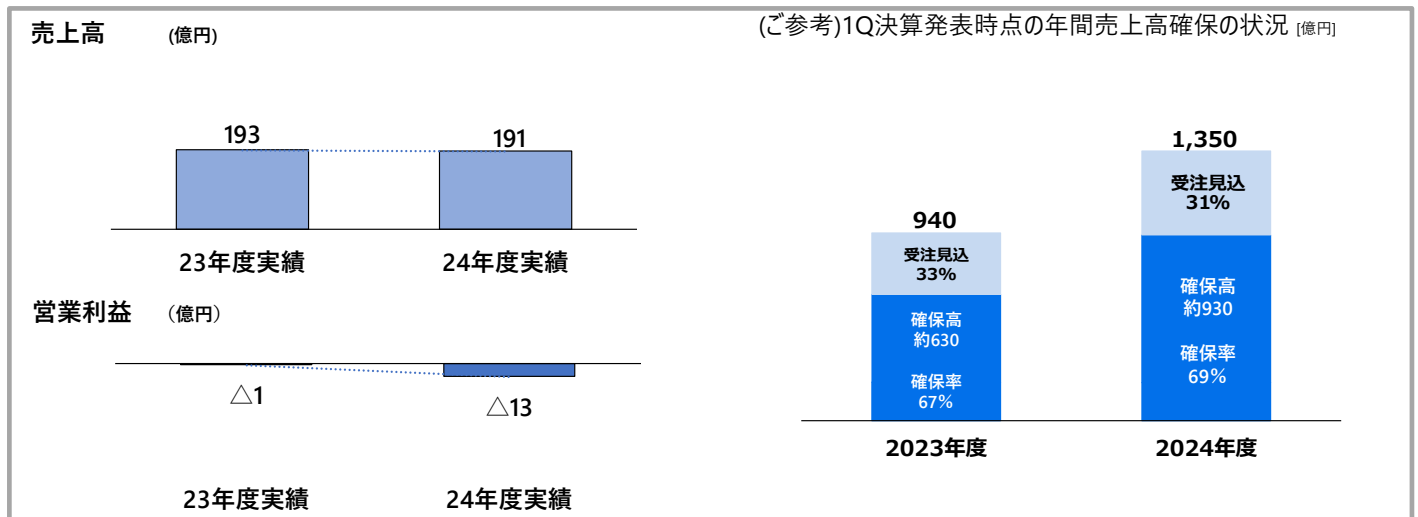
## 2024年度 第1四半期セグメント別売上高/営業利益

(単位：億円)		24年度 実績	23年度 実績	前年比
パブリックソリューション	売上高	191	193	△2
	営業利益	△13	△1	△12
エンタープライズソリューション	売上高	452	274	+178
	営業利益	78	19	+59
コンポーネントプロダクツ	売上高	179	170	+9
	営業利益	△1	△8	+7
E M S	売上高	156	177	△21
	営業利益	△6	6	△12
その他	売上高	1	1	0
	営業利益	△4	△1	△3
消去・本社費	営業利益	△16	△14	△2
連結合計	売上高	979	815	+164
	営業利益	39	0	+39

- 次に、事業セグメント毎の売上高と営業利益です。
- 表の上から、
  - 「パブリックソリューション」は、商品構成差などにより前年対比で営業利益が悪化、
  - 「エンタープライズソリューション」は、前年度来の大型案件を主因に大幅な増収増益、
  - 「コンポーネントプロダクツ」は、増収、営業利益も改善、
  - 「E M S」は、市況の影響もあって減収、それに伴い営業利益も悪化しました。
- 「その他」および「消去・本社費」では、海外R&D拠点の開設を含む将来事業創出に向けたR&Dなど、成長に不可欠な投資を継続して行っています。
- 事業セグメント毎の詳細は、次ページ以降でご説明します。

**パブリックソリューション**

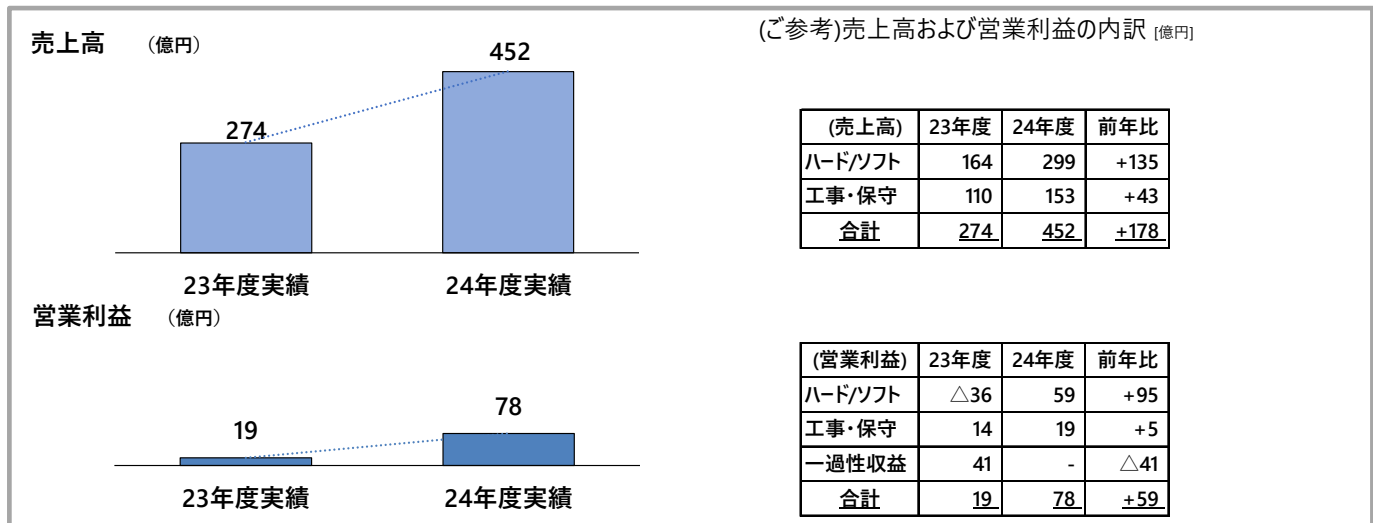
- 売上高はほぼ前年並み、営業利益は商品構成差などにより前年対比減少するも、ほぼ計画どおりのスタート。
- 年度内受注は堅調に推移。



- まずは、「パブリックソリューション事業」です。
- 売上高は、ほぼ前年並みの191億円。
- 営業利益は、12億円減少して△13億円です。ネットワーク案件の商品構成差などにより、前年対比では減益となっておりますが、ほぼ計画どおりのスタートです。
- 24年度年間では、消防・防災・道路・防衛を中心に前年対比で売上が大きく伸長する計画ですが、足元における年間売上高の確保の状況は、右側のグラフにお示しているとおりです。
- 今年度の年間売上高予想1,350億円に対して、その約7割にあたる約930億円を現時点で確保しており、計画値達成に向けて、受注は堅調に推移しています。

## エンタープライズソリューション

- 前年度後半からの大型案件の継続及び、前年同期の部材コスト増の影響の剥落などにより大幅な増収増益。



➤ 続いて、「エンタープライズソリューション事業」です。

➤ 売上高は、前年比178億円増加して、452億円。営業利益も、前年比59億円増の78億円です。

➤ 前年度後半から注力している大型案件を着実に刈り取りつつあり、生産はフル操業が続いています。また、それに付随して、工事・保守事業も順調に推移しています。

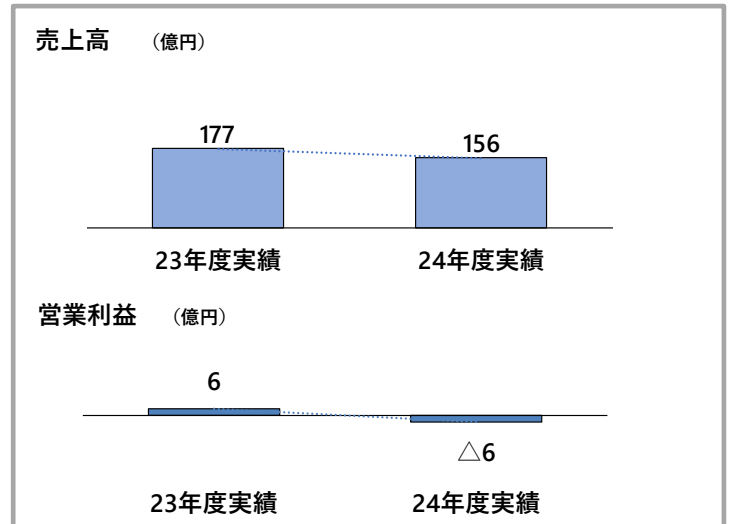
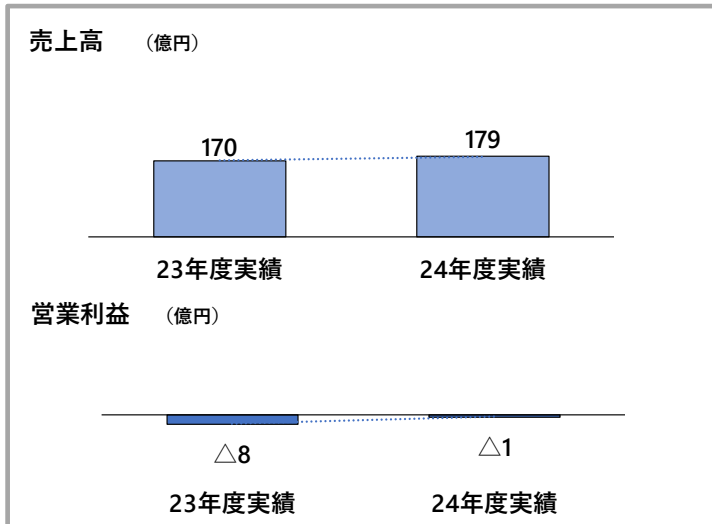
➤ 利益面でも、前年同期における部材コスト増の影響の剥落もあり、前年の一過性収益による影響を跳ね返し、大幅な増益となりました。

**コンポーネントプロダクツ**

- プリンターの海外需要は厳しい状況が継続するも、売上高は為替影響もあり増加。営業利益は費用削減などにより改善。

**EMS**

- 前年度後半以降の半導体市場やFA・ロボット市場の需要減の継続により減収、営業利益も悪化。

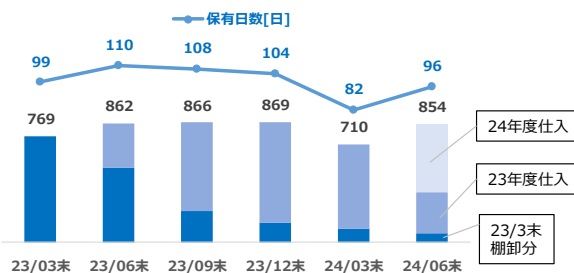


- 次に、「コンポーネントプロダクツ事業」です。
- 売上高は、円安の影響もあり前年対比9億円増の179億円。営業利益は、7億円改善の△1億円です。
- プリンター事業の欧州市場は厳しい状況が継続していますが、費用削減などにより、営業利益は改善しました。
- 最後に「EMS事業」です。
- 売上高は、前年度対比21億円減の156億円。営業利益は、12億円減少して△6億円です。
- 前年度後半以降の半導体市場と中国経済の低迷により、半導体製造装置用のプリント基板やFA・ロボット向けケーブルの需要の減少が続いており、減収減益となりました。

- 棚卸資産の前年度末の在庫は順調に減少。
- 自己資本比率は前年度末と同水準。

(単位：億円)	24年 6月	24年 3月	前年度末比
流動資産	2,337	2,397	△60
固定資産	1,853	1,837	+16
資産の部	4,190	4,234	△44
流動負債	1,851	1,884	△33
固定負債	939	937	+2
負債の部	2,791	2,821	△30
自己資本	1,398	1,412	△14
その他	1	1	+0
純資産	1,399	1,413	△14
負債及び純資産合計	4,190	4,234	△44
自己資本比率(%)	33.4	33.3	+0.1
DEレシオ(倍)	0.7	0.8	△0.1

棚卸資産・保有日数



➤ 次にバランスシートの概要です。

➤ 総資産は、前期末から44億円減少し、4,190億円。主に売上債権の回収が進み、流動資産が減少したことによります。当社は例年、第4四半期の売上高が大きく、売上債権は第1四半期に減少する傾向にあります。

➤ 右側に棚卸資産のグラフを示しています。

➤ 昨年度末時点にあった在庫は順調に減少し、今後の売上に向けた仕込を行っている段階です。棚卸の保有日数は前年同期比で改善していますが、運転資本については、従来以上にマネジメントを強化してまいります。

➤ 自己資本は1,398億円。自己資本比率は33.4%、DEレシオは0.7倍となりました。



## 2024年度 第1四半期 キャッシュフローの概要

- 営業キャッシュフローは利益改善により増加。
- フリー・キャッシュフロー良化に伴い借入金を削減。

(単位：億円)	24年度 実績	23年度 実績	前年比
I 営業キャッシュフロー	143	22	+121
II 投資キャッシュフロー	△44	△59	+15
フリー・キャッシュフロー( I + II )	99	△37	+136
III 財務キャッシュフロー	△104	△38	△66
現金および現金同等物の残高	348	308	+40
固定資産取得額	43	57	△14
減価償却費	33	32	+1

- キャッシュフローです。
- 営業キャッシュフローは、利益改善により 前年比121億円増の143億円。
- 投資キャッシュフローは、中計の方針に則り、成長に不可欠な投資を優先して進めています。
- その結果、フリーキャッシュフローは99億円の増加となり、借入金の削減を実施しました。
- 尚、現金同等物は348億円となり、必要な手元資金を確保しています。

## 2024年度 通期業績予想

■ 期初予想から変更なし。

(単位：億円)			24年度予想	23年度実績	前年差
パブリックソリューション	売上高		1,350	940	+410
	営業利益		105	44	+61
エンタープライズソリューション	売上高		1,700	1,801	△101
	営業利益		125	220	△95
コンポーネントプロダクト	売上高		750	734	+16
	営業利益		15	6	+9
E M S	売上高		800	739	+61
	営業利益		25	11	+14
その他	売上高		0	4	△4
	営業利益		△18	△11	△7
消去・本社費	営業利益		△92	△83	△9
連結合計	売上高		4,600	4,219	+381
	営業利益		160	187	△27
	経常利益		145	183	△38
	当期純利益		95	256	△161
1株当たり配当金(円)			30	30	±0

前提為替レート  
USD : 140円  
EUR : 150円

- 最後に、24年度の通期業績予想ですが、今年度の業績見通しにつきましては、期初からの変更はありません。
- 第1四半期は、半導体市場等の影響もあってやや出遅れる形になったE M S事業を、エンタープライズソリューション事業の順調な進捗が補い、全体として概ね計画通りのスタートとなりました。
- E M Sについては、引き続きその市況の回復に不透明感がありますが、エンタープライズソリューションや、パブリックソリューションにおいて昨年度来取り組んでいる注力領域における大型案件を着実に取り込み、今年度の業績達成を目指します。
- また、成長投資についても、当期の利益確保とのバランスをとりながら計画どおりに強化・継続してまいります。
- 以上、第1四半期の決算説明とさせていただきます。
- ご清聴ありがとうございました。

(補足) セグメント別売上高/営業利益 (四半期別推移)

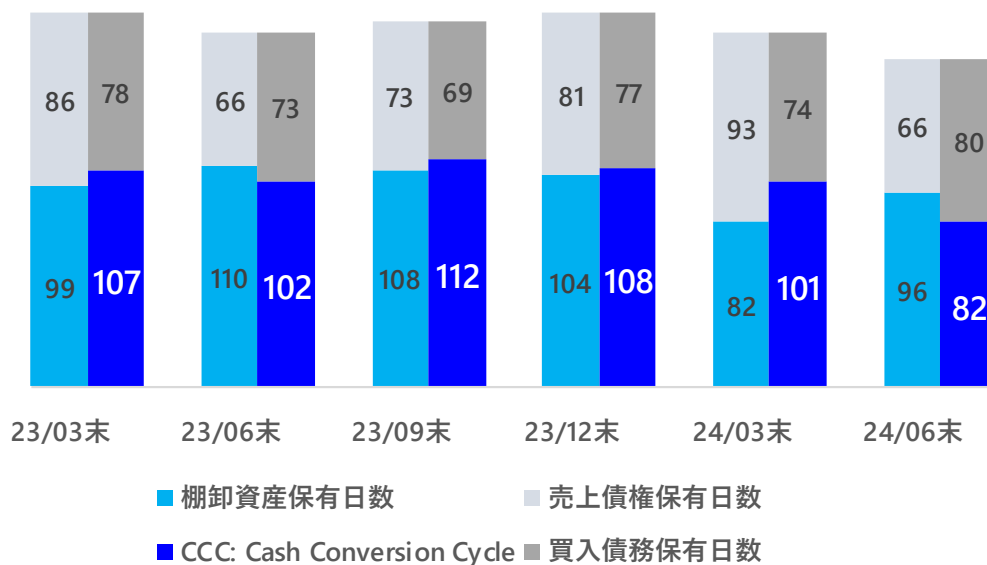
(単位: 億円)		23年度					24年度
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q
パブリックソリューション	売上高	193	200	245	301	940	191
	営業利益	△1	△7	14	39	44	△13
エンタープライズソリューション	売上高	274	365	515	647	1,801	452
	営業利益	19	20	66	114	220	78
コンポーネントプロダクト	売上高	170	179	185	200	734	179
	営業利益	△8	13	△8	9	6	△1
E M S	売上高	177	188	171	203	739	156
	営業利益	6	3	△1	3	11	△6
その他の	売上高	1	1	1	1	4	1
	営業利益	△1	△3	△3	△4	△11	△4
消去・本社費	営業利益	△14	△15	△22	△32	△83	△16
連 結 合 計	売上高	<b>815</b>	<b>933</b>	<b>1,118</b>	<b>1,353</b>	<b>4,219</b>	<b>979</b>
	営業利益	<b>0</b>	<b>10</b>	<b>48</b>	<b>129</b>	<b>187</b>	<b>39</b>

## (補足) 各セグメントの主な製品およびサービス

パブリック ソリューション	<ul style="list-style-type: none"><li>• 道路 (ETC/VICS) 、航空管制、防災、消防</li><li>• 中央官庁業務システム、政府統計システム</li><li>• 防衛システム (水中音響/情報)</li><li>• 航空機器</li><li>• インフラモニタリング</li><li>• キャリアネットワーク、映像配信、5G・ローカル5G</li></ul>
エンタープライズ ソリューション	<ul style="list-style-type: none"><li>• ATM、現金処理機</li><li>• 営業店端末、予約発券端末、チェックイン端末</li><li>• ATM監視・運用サービス</li><li>• 金融営業店システム、事務集中システム</li><li>• 鉄道発券システム、空港チェックインシステム</li><li>• 製造システム (ERP/IoT)</li><li>• 工事・保守サービス</li></ul>
コンポーネント プロダクツ	<ul style="list-style-type: none"><li>• AIエッジコンピューター、センサー、IoT NW</li><li>• PBX、ビジネスホン、コンタクトセンター</li><li>• クラウドサービス</li><li>• LEDプリンター</li></ul>
EMS	<ul style="list-style-type: none"><li>• 設計・生産受託サービス</li><li>• プリント配線板</li></ul>

# (補足) 主要運転資本：保有日数の推移

単位：日



※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって、実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：

各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。  
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。